

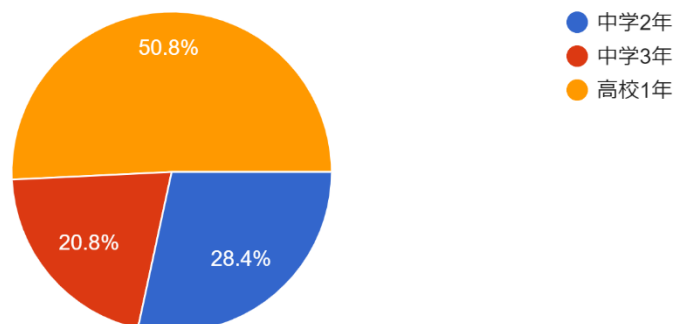
2020年度海洋教育アンケート結果（中2，中3，高1生徒）

実施期間：2021年5月11日～5月22日

有効回答数：331件

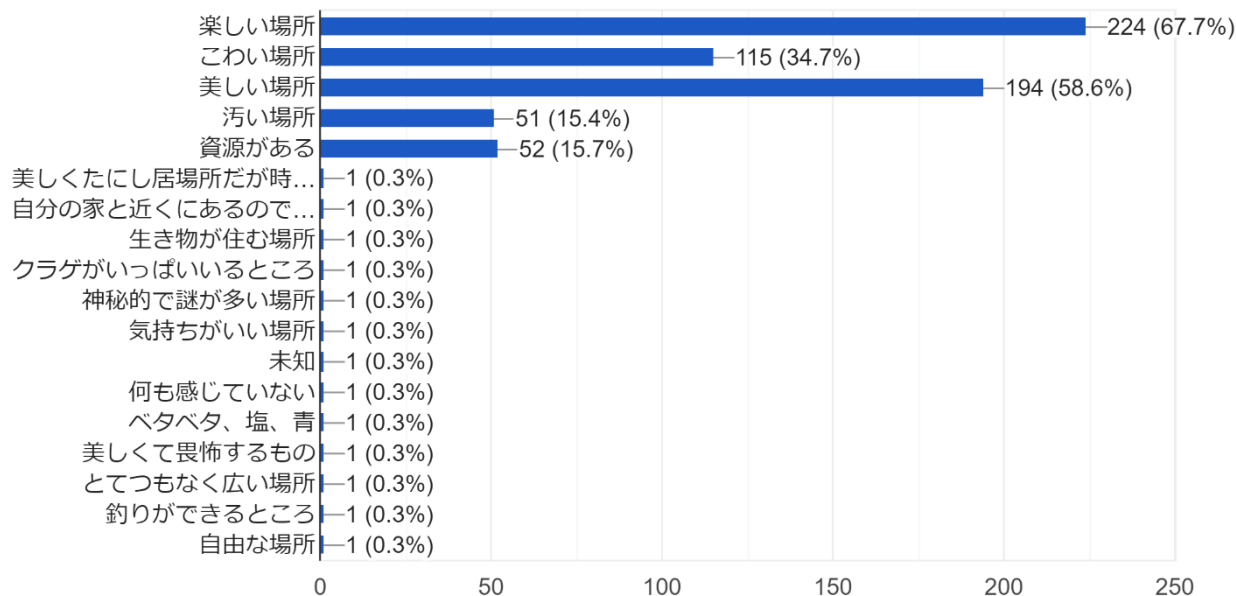
学年

331件の回答



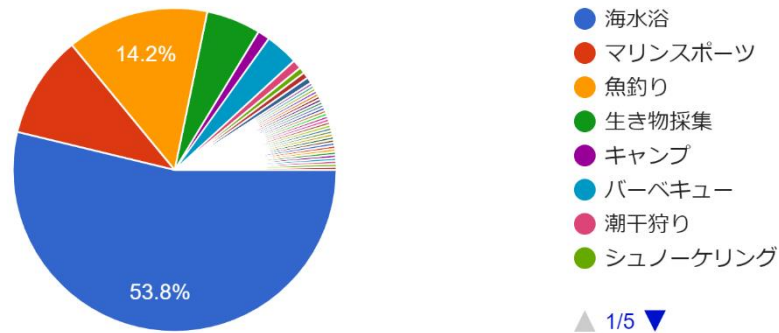
幼い頃からの今まで「海」という場所にどんなイメージを持っていますか。（複数回答可）

331件の回答



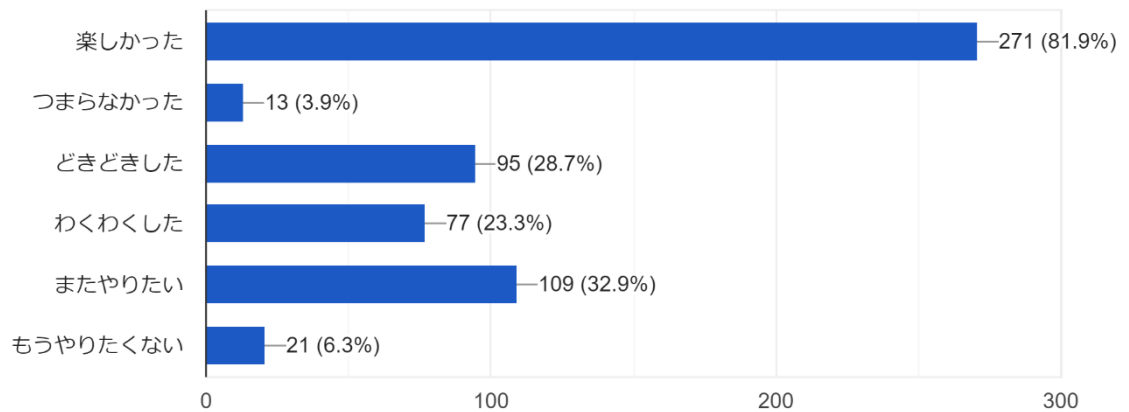
学校外で、最も印象の残る海に関する思い出を1つあげてください。

331件の回答



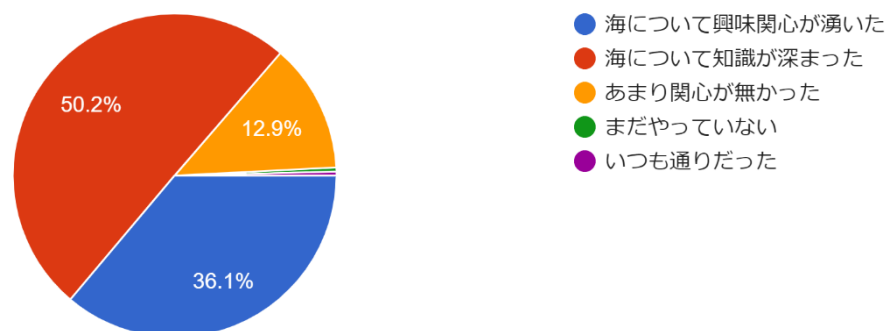
(中2, 中3, 高1) OPヨット実習の感想を次の中から選んでください。(複数回答可)

331件の回答



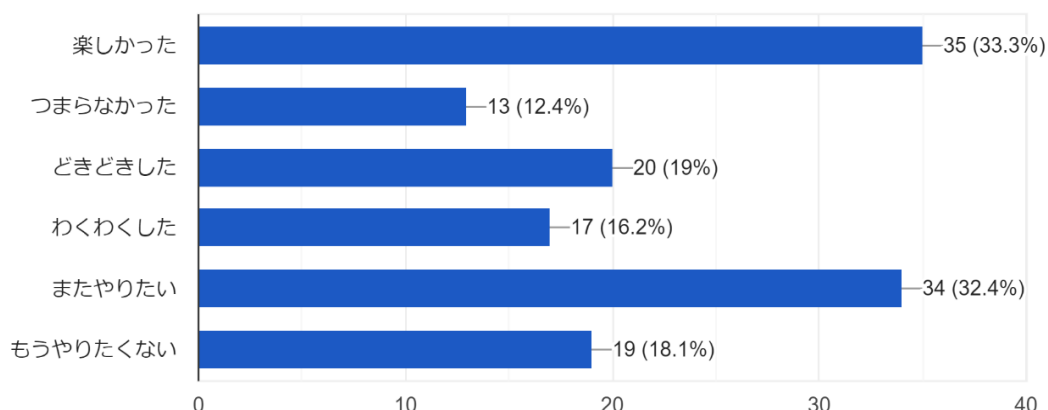
(中3, 高1) 海洋に関する学習の感想を次の中から1つ選んでください。

249件の回答



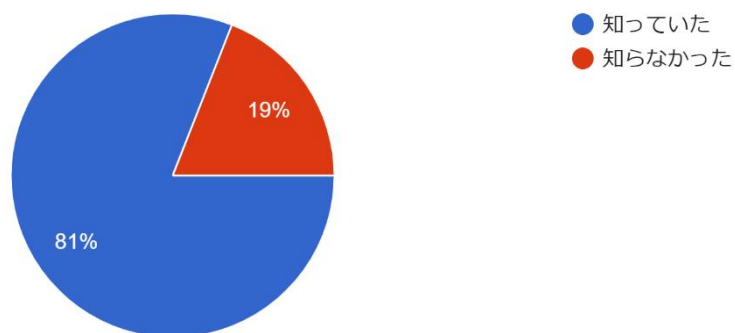
(高1のみ) 遠泳実習の感想を次の中から選んでください。(複数回答可)

105件の回答



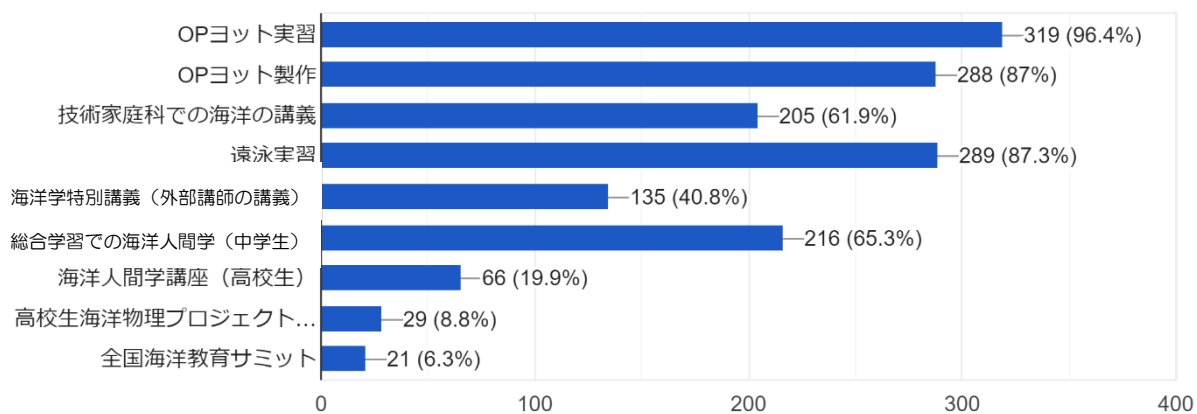
逗子開成には、海洋教育があることを中学入学前から知っていましたか。

331件の回答



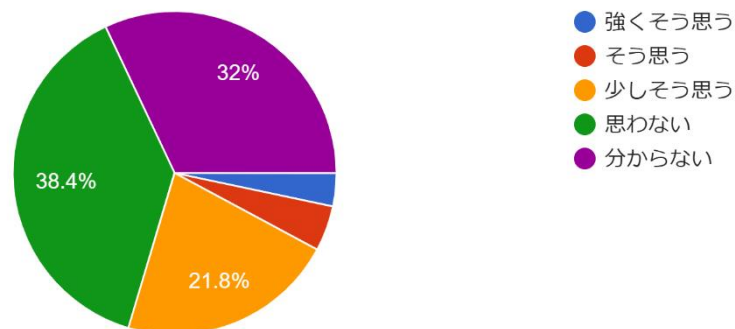
逗子開成の海洋教育の学習で知っているものを選ん...体験してなくても構いません。(複数回答可)

331件の回答



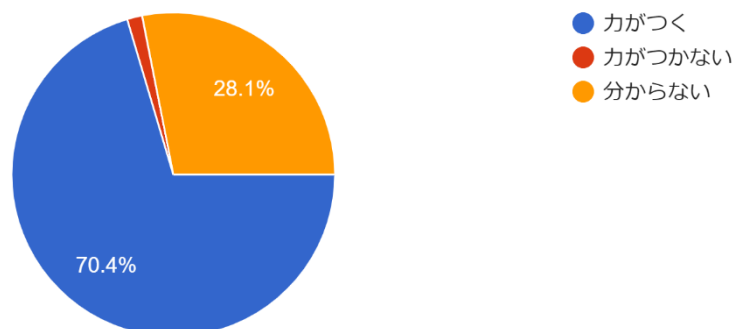
将来、海に関係する仕事に就きたい、海に関係する研究がしたいと思いますか。

331 件の回答



逗子開成の海についての学びから、自分には何か力がつくと思いますか。

331 件の回答



あなたにとって「海」はどんな存在ですか。

286 件の回答

<中2>

- ・自分ではコントロールをすることができない自然。
- ・海に関する行事等で成長することもできるが命の危険な場所でもある。
- ・海産物や資源が採れるところ。
- ・身近で楽しい場所、心が落ち着く場所。

<中3>

- ・時に楽しくて時に危ない場所。
- ・校舎の窓などから眺めているとリラックスさせてくれる存在。
- ・いろいろな発見が生まれる場所。
- ・楽しくて夏しか行くことのできない特別な場所。

<高1>

- ・人類の味方でもあり、敵でもある。扱いを間違えると崩壊を招く危険な存在。
- ・分からないことばかりの不思議な場所。
- ・私を受け入れてくれる母のような存在。
- ・賑やかな時は和やかに、静かな時は穏やかにしてくれる存在。
- ・命が溢れる場所。

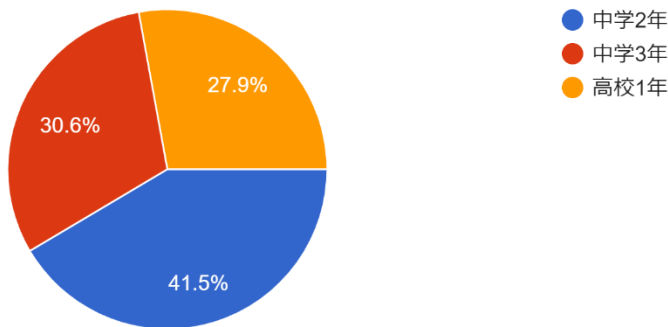
2020年度海洋教育アンケート結果（中2，中3，高1保護者）

実施期間：2021年5月11日～5月22日

有効回答数：434件

ご子息の学年

434件の回答



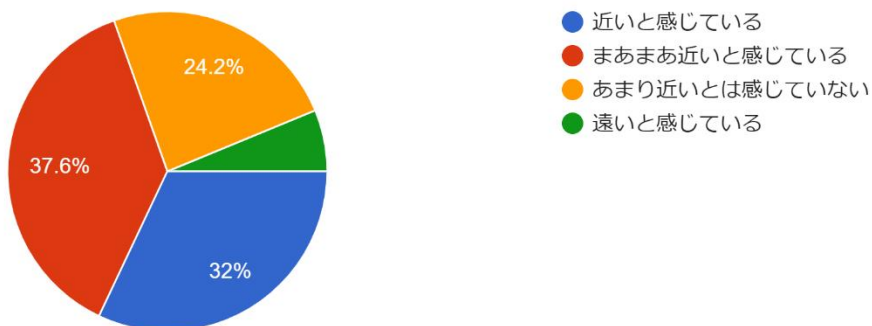
ご自宅の地域

434件の回答



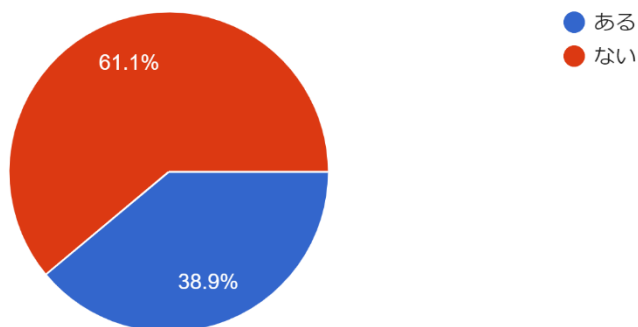
ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。

434件の回答



これまでに学校のOPヨット実習を見学されたことはありますか。

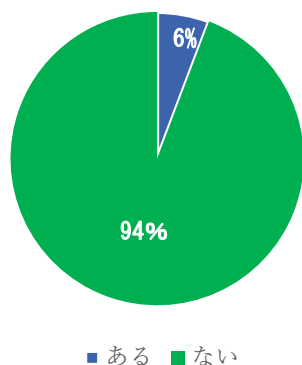
434 件の回答



ご自身が学校で海洋教育を受けられたご経験はございますか。「ある」とお答えの場合、「その他」に具体的な内容を簡単にお教え下さい。

434 件の回答

保護者が海洋教育を受けられたご経験



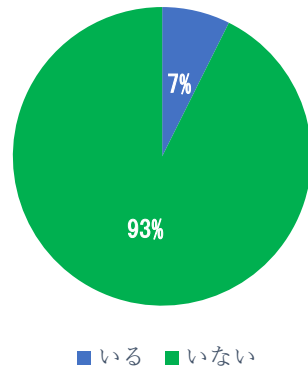
<受けられた海洋教育の例>

- 逗子開成の卒業生（OP ヨット，遠泳，ヨット部に所属していた 等）
- 卒業された小学校・中学校・高等学校でのご経験（授業，遠泳，水泳，磯観察，ビーチコーミング，臨海学校，ヨット部所属，サンドアート，潮干狩り 等）
- 卒業された大学でのご経験（海洋実習，ヨットの授業，ヨット部所属，海洋工学，水産学 等）
- その他（スキューバダイビング 等）

海洋に關係するお仕事に就かれている方が、家族やご親戚にいらっしゃるかどうか。「いる」とお答えの場合、お差支えなければ、「その他」に仕事の内容を簡単にお教え下さい。

434 件の回答

海洋關係の仕事従事者



<お仕事の例>

- ・ 漁業，水産加工業
- ・ 遊漁船
- ・ 造船，ドックマスター
- ・ 船長，水先案内人
- ・ 海運業（国内，国際）
- ・ 研究開発（海洋調査，海底ケーブル設置，藻場再生資材の開発，地震・津波）
- ・ ヨットのインストラクター
- ・ 海上保安庁

など

海洋教育がご子息にどのような成長をもたらすとお考えですか。

434 件の回答

（回答の中から抜粋）

<中2保護者>

- ・ 自然の力を知り，心身の内からの力強さを得る機会となる。
- ・ 自然の重要性を実感し，体験することで，深く理解でき，その過程で他者との関わりについても学んでいくことができる。
- ・ 生命の根源である海洋について学ぶことにより，環境問題，生命の起源や進化など自然に興味を持ち豊かな心をはぐくめる。

<中3保護者>

- ・ 日本という国の存在は，海洋抜きにしては考えられないが，近年人と海（自然）との直接のつながりが希薄になっている。（本校の）海洋教育は，海を身近に感じ，その恩恵や怖さ，もろさを知る大変良い機会になっている。～中略～ 事故のリスクもあるなかで，安全管理の大切さを学び，自然をなめないという機会も与えてくれる。

- 自然の豊かさ、厳しさを身体で感じ、時には予測不可な外部環境に仲間と助け合って目標を達成する喜びを感じ取ることができる。
- ヨットを作るという経験を持って、モノづくりの面白さを感じて欲しい。また、普段はビルに囲まれた暮らしをしているので、学生の間、自然を身近にのびのびと過ごすことは一生の財産になる。

<高1 保護者>

- OP 実習で友達と協力し合う事から、協調性や思いやりの気持ちを持つことができる。
- OP ヨットでは、コントロールできない環境下で対処する心構えの一端を掴めたのではないかと感じている。
- 地球環境問題への関心や生物への探求など、自分だけのことではなく、視野の広い考え方を持つことにつながる。
- 海について考える機会を得たことで物事を深く考えるきっかけになっているのではないかと思う。海と関わることで年々臆することなく伸び伸びとしてきた感じがする。

海洋人間学評価報告書

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
布施 梓（特任研究員）、丹羽 淑博（特任准教授）

中1の総合学習における海洋人間学 ～海に関する土曜講座を企画する～

本実践は、総合学習における海洋教育を実践的に行った「海洋人間学」初めての取り組みである。今後の学習につながる探究活動の基本となる「情報の使い方」を身に付けることを主な目的とし、テーマを海洋と関連付けることで、総合学習と海洋教育を実践的に融合させ、本校独自の海洋人間学として実現させた。

授業構造は、総合学習の学習手続きをベースに、扱うテーマを海洋に関することに範囲設定することで、総合学習での海洋教育の実践が意図されている。生徒は、個別に海に関する情報を収集・分析・編集して、最終的には「海の土曜講座」企画としてまとめるという創造的な探究プロセスが設計されている。

カリキュラム前半の情報収集過程では、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの連携による、アニメーション動画「海—いのちをめぐる旅—」の視聴や、海洋の諸課題を多面的に取り扱った資料「Ocean at Risk」の閲覧を通じて、最新の海洋に関する知識を得た上で、各生徒自身が、関心に合わせた課題設定を行った。そして、図書室、インターネットなどでの情報収集方法を体験的に学びながら、個別に企画構想を作り上げ、一人ずつ発表して全体で共有するという探究過程を通じて、思考力・判断力・表現力を培う学習を行い、主体的に学びに向かう総合学習「海洋人間学」を実現させているといえる。

その結果、目的とした「情報の使い方」については、図書室の具体的な使い方を習得でき、書籍やインターネットでの情報収集も行うことで、今後の学習・探究活動につながる成果となっている。また、最終的な企画発表では、自然科学・社会科学的なテーマだけでなく、新たな視点からの海との関わり方を探究した例もあり、多様な生徒の個性が発揮され、総合学習で培いたい創造性育成の可能性も十分に感じられた。

また、授業後に行った生徒アンケートからは、単に綺麗だと思っていた海に思った以上に様々な問題が存在すること、海が人間の暮らしととても深い関係のある場所であることを知った、と言ったように、海に対する認識の変化を述べた回答だけでなく、さらに進んで、普段気にしていないことに対して気にすること、自分から問題に関わることに、自分で解決策を考えることが大切、と言ったように、海洋問題に対して自ら考え解決を模索する意欲を示す回答が多く見られた。このように本実践に主体的に取り組むことを通じて、海洋教育の理念である「海と人間との共存」について理解を深めるのに一定の効果があつたことが確認できた。海洋教育の普及が進む中、本実践は海洋教育の先駆的なモデルケースとしてこれから全国的に参考にされるものになることが期待できる。

次年度以降、さらに独自の「海洋人間学」として発展させていくために、手の届く現実の海、すなわち、逗子の海との関わりも視野にいれるとよいだろう。今回の実践により、多くの生徒が、海に関する大局的な諸課題に一定の興味・関心があることは確認できた。一方で、よりローカルな海、生徒それぞれの目線レベルで取り扱える海に関する視点は少なかった。これは必ずしも生徒の関心不足というわけではなく、授業設計の工夫次第で、引き出すことはできるだろう。それにより、全地球的海と、逗子の海との連続性の理解を通じて、学習者がさらに当事者意識をもてる海洋教育となることを期待したい。

以上のことから、「中1の総合学習における海洋人間学 ～海に関する土曜講座を企画する～」について、今後大いに発展が期待できる挑戦的かつ有意義な授業実践であったと評価できる。なお、新型コロナウイ

ルスの感染症対策によって、授業計画や方法の見直しを行いながらも、本授業を実現した各担当者の努力に敬意を表したい。